

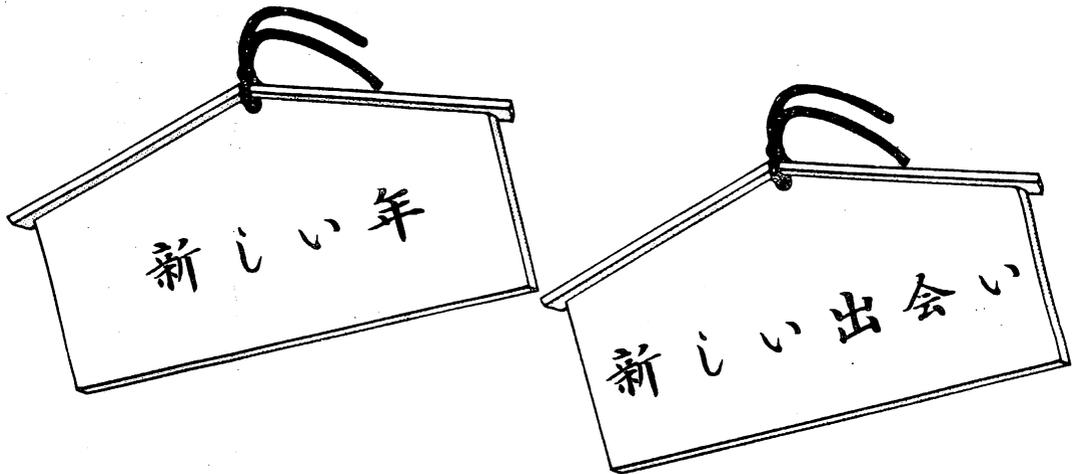
サ

ロン

出会い ふれあい 助け合い

あべの

NO 80



サロン・あべの一月の出会い

平成五年一月十六日(土)の午後、近鉄百貨店アベノ店九階「遊彩食」において、サロン・あべのの新年会を開催した。

集場所は例年どおり九階のエスカレーター前広場である。連休の谷間であったにもかかわらず、本当にたくさんの方々に参加していただいた。また今年はその広場で、皇太子妃内定を記念した、パネル展が開かれていたこともあり、ひとときわにぎやかであった。

午後一時を過ぎたあたりからサロン紙をお配りし、同時に会費も集めさせていただいた。そして順次、パネル展のすぐ裏側にある「遊彩食」へと入った。

かなり広い店内ではあったが、その一角をサロンの新年会のために空けておいていただき、お

かげで、スムーズにテーブルに着くことができた。

参加者全員が顔をそろえたところで、ビールとジュースで乾杯をし、いよいよ待ちに待った食事である。

メニューは、お肉をメインにした洋食ランチであった。

食べやすくスライスされた、やわらかいお肉に、タレがたっぷりとかかっていた。これは参加者の一人からお聞きしたのだが、焼き肉のタレを作っているあるメーカーが、消費者の反応を知るために、この店を使っているそうである。

肉が好きな方、魚が好きな方、それぞれに好みはあるものの、こうして大勢で同じものを食すると、また別の味わいがあるものである。

今年も各テーブルでは、終始和やかな会話が弾んでいた。

参加者三十三名。

出会い大切

洋服との出会い、目白との一瞬の出会い、サロンの例会での出会い…いろいろな出会いがあります。

洋服と私

中野 君江

百貨店の婦人服売り場、気のむいた時に
出かけ、時々うろつく事になっている。
足が一人でワゴンの方へと急ぐ。
「もしもし、奥さん。こっちこっち、私
の服をみて下さいよ」とさ、やく声がす
る。ふと足をとめて見入る。
サイズ・価格、私の第一条件にパス。次
に、色・柄、一番大切な着やすい素材か
を見る。障害者になってから、一層脱いだり
着たりするのが大変なので、自分に着やす

いブカブカなのを、買って身につけている。
近くのブテックのママさん、二度買っ

たら、もう店奥から声をかけて下さるが、
高価な上、スタイル満点な品、私には、と
っても着られそうにない服。第一よびとめ
られたら、買わなければと思うし、私には、
着やすい品がほしいのとは、どうにも恥ず
かしくて言えない。今日はちょっと急いで
いるので又ねと足早にたち去る。百貨店で
も店員さんがよってこられ「よくお似合い
と思います。一度御試着になって見て下さ
い」と言われると恥ずかしく「又ね」と声

出会い、生き生き

倭 幸夫

をかけて立ち去る。障害をもつ私のひがみ
かなア。
幸な事に、私には何時も洋服からのささ
やきの声が耳に出来る。あたかも、私にお
あつらえの様な服、買って下さい、買って
下さいと合図してくれるふれ合いがある。
この様にして自分のものにした洋服、他
人様から見れば流行のどうの、肩巾がどう
のと言われても、私には、満足して着用し
ている。大切な洋服、私の目にふれ買入
れた喜び、又お願いネ、

前略、お許し下さい。
寒い日が続いておりますが、皆様にはお
変りございませんか。
先日はハサロン・あべのVの一月の出来
いに、長男の代わりに出席させていただき
ました。皆さん明るく、親切な方ばかりで
すね。家内の紹介で石田様、富田様はじめ、
数名の方に初対面の挨拶を致しましたが、
どの方も生き生きとした顔付きで、ニコヤ
カですし、すっかり感心しました。

おいしい料理を味わいながら、文字どおり温かく、ソフトなムードに包まれた感じのひとときを過ごさせていただきました。



サロン・あべのの一月の出会い

私は、初参加でなにもわかりませんが、強く、ひたすら前向きに進もうとされている皆様の生命力に胸を打たれました。

今回の参加を機縁に、今後出来る限り「出会いの集い」に出席して、一人でも多くの方と知り合いになりたいと思います。

本当に有難うございました。

お世話下さった方々にも、どうかよろしくお伝え下さいますよう、乍乱筆拙文一言お礼を申し上げます。

出会い 一瞬

色彩鮮やかに花を描かれた西村勇三氏の油絵個展を見終って、育徳コミュニティセンターを出て来ると、前の保育園の山茶花が今を盛りに咲いていました。自然の花の美しさと画家の感性で描き留められた花の美しさの余韻とが合わせあって、外の寒さもなんのその、心はふくふくあったかい思いで幸せな気分になっていました。

トトロと電動椅子を動かして、深紅の花を見つゝ行くと、こずえに近い花に小柄な鳥が一羽無心に花芯をつゝいているのを見つけました。雀でもないし、と思いが



らよくよく見ると目に白い丸、濃い黄緑の体。私の鳥に関する乏しい知識ではありますが、あれは「目白」と直感。

なんと運のよい事と嬉しくなって、よく見ようと近づいていくと、パット雀が五〜六羽チチ…と鳴きながら飛び去り、目白もその中へ。

あっけない出会いで、ひょっとしたら自分の思い違いかも、こんな所に目白などいるわけがない、早やとちりの私のことだし…と考えながら帰宅。

その夜のテレビニュースで、長居公園の山茶花の林に目白が遊んでいると、あの姿が映りました。一瞬の出会いながら、何羽かの雀の中から私にその姿を見せてくれた目白に、大きな親しみを感じながら今日の幸運を喜びました。

(K)

アメリカからの手紙

親愛なる慶子さんへ

私はあなたからの返事をいただき、あなたがペンパルになって下さると知って、たいへんうれしく思います。

私はできれば(もっとたくさんのペンパルが)ほしいのです。

私は32歳で既婚で、9歳の男の子と6歳の女の子がいます。

私は慢性のぜんそく、関節炎、筋肉リユーマチ、筋ジストロフィーなどたくさんの障害をもっています。そういうと大変な感じですが、大丈夫です。私は歩くのを見るのが困難なのです。

私は4年前に、発症しましたがかなり回復しました。医学的な情報交換をしますか。日本の人がどのように病気を治療するか関心があります。

あなたがペンパルになって下さったことを光栄に思います。

そして、できればもっとペンパルがほしいのです。

ありがとう。

パティー トラッキー

パティー トラッキーさん、マーガレット ボウラーさんとの文通をご希望の方は、富田までお問合わせ下さい。

☎06-691-1028.

Dec 89

Dear Keiko:

I was pleased to get a reply from you and I am pleased to hear you will be a pen pal. I would like to have more if possible.

I am 32 years old, married with 2 children a boy 9 and a girl 6.

I have a variety of disabilities. I have chronic asthma, arthritis, fibromyalgia and reflex sympathetic dystrophy. It sounds



© 1974 THE ROSS-AMERL CO., INC.

bad but I do ok. I have a hard time walking and have a hard time seeing. I had a stroke 4 years ago but have recovered pretty well.

Do you exchange medical information? I would be interested in how the Japanese handle certain diseases.

I am honored to have you for a pen pal and wish to have more if possible

Thank You
Patti Truckey
PO Box 367
Republic, Mo.
645879



© 1974 THE ROSS-AMERL CO., INC.

新刊書ご紹介

障害者の生活ガイドブックとして、約90人の障害者がしたたかに人生を楽しむ術を公開!

自分らしい生活を考えていきたいと想っておられる方へ

☆「わたしは、生活達人。」

【内容紹介】

- 伝える = パソコン通信利用法他
- 遊ぶ = スキューバダイビング、車いすダンス他
- 仕事 = 特技(絵画)で収入、企業に就職他
- その他 = 住む、学ぶ、食べる、愛する、政治、装う、あらわす、動く、生きる、健康等の項目

定価 1500円
 発行 ハンディキャップ・ライフ研究会
 申込み ウイル作業所
 TEL. 06-607-8260



イギリスからの手紙

McCartan, Mick
 Carlton
 North
 28.12.92

Dear Keiko

Very grateful for the
 thanks for the surprise parcel
 you sent. I liked the presents
 very much. I didn't open it
 until Christmas day, so it was
 a surprise. I worked on Christmas
 day, but have had a few day
 off since.

I am my 25yr old boy (he
 is a doctor) - became engaged and
 will get married to Katie (a nurse)
 in September 1993.

Our Myotonic Dystrophy Support
 group is growing, we know many families
 so you know of any person who
 has myotonic dystrophy?
 love to you Margaret

親愛なる慶子さんへ

あなたの思いがけないプレゼントをと
 てもうれしく思います。

あなたのプレゼントをととても気に入っ
 ています。

私は、クリスマスの日までそれを開け
 ませんでした。だからそれは驚きでした。

私は、クリスマスの日には働いていまし
 た。しかし、それ以後は休みです。

長男のイアンは25歳(彼は医者です
)で、1993年の9月にカティエ(看護
 婦)と結婚することになりました。

私たちの筋ジストロフィー支援グルー
 プは成長しつつあり、私たちは多くの家族
 と知りあいになりました。

筋ジストロフィーのどなたかをあなた
 はご存じですか。

あなたに愛をこめて

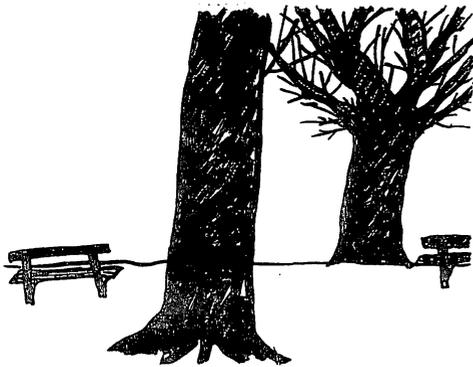
マーガレット

耐えることの意味

おそらく生きることについての、最も大きくしかも深刻な問いは、ここで耐えることに意味があるのかどうかということだろう。

耐えるのは何のためなのか。耐えたあとに良きものがくると待ちのぞむからか。あとからくると期待できるものは、耐えることで支払ったものを、おぎなつて余りあるものなのだろうか。それとも耐えたあとの慰めにすぎないようなものなのか。

耐えること、そのもののなかに意味



を見いだすしかないのか。耐えることを通して、みずからの力を感じ、向ってくる流れに逆らい、手をのばせば、そこに渦がうまれる。渦は耐えている生命(いのち)の形なのかもしれない。

耐えることを止めても、人は静かに消えるわけではない。耐えることを止めた放心の姿が残るだけだ。この事實は人にとつて慰めなのか、それとも酷い神の無関心なのか、私にはわからない。

耐えることをやめ、流されるままに身をまかせたなら、気がつく、洗濯機に長い間かけすぎたハンカチのように魂の色は落ち、形も歪んでしまっている。汚れたままの時をすごし、ただれた心のひだを人目にさらして、こんな様子になったのは、おまえのせいだと、捨てられた犬のように吠えても、耐えることができなかった自分の孤独だけが波のように打ちよせてくる。

耐えることは日常のことだ。私たち

はとくになにか大きな強い力の下で耐えるのではない。もちろん、そのような強い力のもとで耐えなければならぬ人もいる。しかし大多数の人びとにとつて、耐えることはもつと深い虚しさのなかで自分自身であり続けることだ。空ぞらしさのただ中で、なにもないところ、なにもないままに耐えるのである。

なにもないからといって、あきらめではならない。なにもないからといって、ひととしての誇りを捨ててはならない。大きな勝利もないままに、ただ自らを整え、崩れまいと努め、自分は何者でもないという足場のないもどかしさと怖れに耐えるのである。

耐えることができるかできないか、それは体力の問題ではない。体力なら年齢や男女の差がある。しかし耐えることができるかどうかは、気力や意思の強さにかかわる。そして気力は、時のままに崩れないことこそ生命(いのち)の形であると知っているかどうかに左右される。耐えている姿そのものが、すでに勝利の証しであるということが、人の日常にはある。

(知)

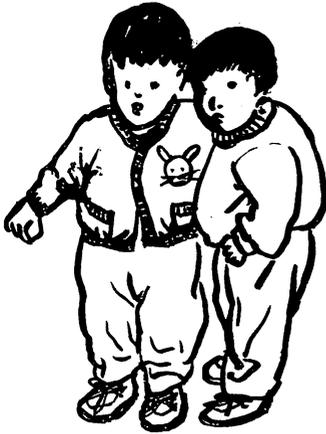
Volunteer Center

19

九 ボランティアセンターの機能(各論)

①先駆的活動の開拓 ②福祉思想の普及

ボランティア活動などの市民による福祉活動を考えるときによく言われたことで、「ボランティアが活動をするから公的な福祉施策が進まないのではないか」ということがある。これは現実の問題としてはそういう状況もあるので一概に否定しにくいし、活動を自分たちでできるサービス提供のレベルで終わらせているボランティアが多いことに問題があるともいえる。



行政の仕事というのはどうしても公平性というのが前提となるので、新しいニーズに即座に対応しにくいことは、ある程度はやむを得ないかも知れない。そうした中で新しい制度をつくっていくためには、市民の側からもそのサービスを実施することの効果を示していくことや、ニーズをもつ人の声や実情を集めてくる必要がある。

ボランティアは今まで埋もれていた問題を明らかにしていくことも重要な役割であるから、これらの問題を解決するために新たな福祉施策を引き出していく「先駆的活動」に積極的に取り組んでいかなければならない。また、そうした先駆的事業を広げ、その効果を伝えていくことは、個々のボランティアやグループではなかなか大変だから、ボランティアの自主性を尊重しながら、

先駆的活動の組織化をすすめていくことはボランティアセンター(VC)の役割である。しかし、行政がボランティアの活動を理解して、それを施策として取り上げていくかどうかは、ある意味では綱引きのようなものであり、行政に引き勝つ力をもつためには、いかにVCが民間性を持っているかが重要になる。

最後になったが、「福祉思想の普及」はVCの機能というよりも、地域福祉活動をすすめていく上で不可欠のものであると同時に、地域福祉活動を通じて実現すべきテーマであるといえるだろう。福祉社会を創っていく福祉思想を広め、福祉文化を築いていく上で、ボランティアなどの活動を通じて学び、考えることが大きな意味を持っている。

問題はいかにしてこれを広めていくかということであり、VCとしても多様な機能を発揮して多くの人のボランティア活動への参加をすすめていくとともに、単に活動するだけでなく、活動を通じて福祉思想を身につけていけるように必要な援助を行っていくことが求められているのである。

サロン・あべのの出会いは今もうすぐ一〇〇回を数えます。その出会いの風景をふりかえってしまいました。



はあとが、はろー！

「〇」からの呼びかけ

富田 慶子

ハサロン・あべのVが発足して、早いもので四月を迎えると八年目に入ります。

この間、毎月の出会いを通して多くの方々とお会いしました。その月一回だけの方もありましたが、多くの方々は、今もハサロン・あべのVとの関わりを持って下さっ

ています。その方々が居て下さったからこそ、今日のハサロン・あべのVが在ると言っても過言ではないと思っています。又、これからのサロン活動も続けて行けると考えています。

しかし、このように多くの方々との出会いを、ふれあいや助けあいにまで深められたのは、サロン活動に積極的に参加し、運営にたずさわって来て下さった委員がおられればこそと思っています。

今でこそハサロン・あべのVというグループは、定期的に出会いの場を開催し、会紙「サロン・あべの」を発行してと、具体的にサロンの概要を話すことが出来ませんが、発足前のサロンは、何も無い存在でした。

昭和六〇年六月に大阪市内で初めて、あべのボランティア・ビューローが育徳コミユニティーセンター内に設立されました。このビューローのお手伝いをするボランティアのビューローグループ(阿倍野区ボ

ランティア連絡協議会より)に参加していた私に、初代コーディネーターで居られた岡知史氏から、ビューローに関係している障害者の人達と何かつくってみては…との話が出ました。そして、出会ったのが井上

憲一(肢体障害)・大島功(視力障害)の両氏でした。お二人の話は、障害者の社会参加を積極的に推し進めていこうとする、とても大きく奥の広いお考えでした。特に障害者の生活を基盤に、仕事・結婚・介護

等の話は、何に対しても深く考えたことのない私には、耳新しい言葉でした。大きな夢を伺っても、それをどのような形にしていけばよいのか戸惑い、考えあぐねていました。ただ、私としては、障害者だけの集りは作りたくないという思いがありました。障害者だけの集りはそれまでも多く有ったからです。

障害者の社会参加を目標にする集りであればあるほど、障害者にとって健常者との交流が大切だと考えていました。

幼い頃に多発性関節リュウマチを患い障害を持った私の生活は、健常者の中ではお客様でした。不自由もなければ不満もない生活は、有難く幸せな事といえますが、どこかに遠慮がありました。その事に気がついたのは、二〇歳もとうに過ぎた頃、ある障害者のグループに参加してその方々の生き生きとした姿に感動し、障害があっても自分の生活を持てることを知った時でした。その数年後、福祉の勉強がしたくなり、市立婦人会館で「社会福祉と地域福祉」という講座を二年間受けました。この時の受講生の中で障害者は、私一人でした。色々と便宜を図っていただいたり、ご親切にしていたり、同じテーマで学習出来る楽しさを知りました。障害者と健常者であっても、同じテーマを考える時は、仲間になれると実感しました。これは周囲の方々の温かいお心がなければ出来ないことであつたかもしれませんが、その時の思いが強く残っていてグループを作るのであれば、お互いの思いが話合える場を作ってみたいと考えていました。それに、国際障害者のテーマとして「障害者の社会参加」が大きく取り上げられていましたから、とりあえ

おもしろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

公舎訓練

生活自立訓練と呼ぶと固苦しいのですが、こんごう寮では、空き職員住宅を利用して、通称「公舎訓練」を行っています。

大体二週間、単独または複数で、夜の自由時間を公舎で過ごし宿泊して、朝食自炊を行って、寮にやって来るというものです。

単純な訓練のようですが、寮生さ

んには難しい点が色々あり、公舎訓練は大きな自信につながります。

しかし、失敗談もあります。

先日、週末に帰宅したSさんが帰寮予定時間をはるかに回っても帰ってきません。

途中で事故でも、と心配して探しまわる職員を知らず、一人公舎で悠々とコーヒーを飲み、「お腹すいた」と言いつつ、帰寮したSさんでした。

ず参加することに意義があるのだと考えました。

その頃、斉藤孝文氏が井上氏の紹介でビューローに来てくれました。CPDで言語障害のある斉藤氏は、文字板ではっきり自分の考えを伝え、最後の言葉尻まで丁寧に伝える指の動きの正確さに感動しました。この時初めて、健康な耳があり、明るく楽し

い笑い声を出せるのに、言葉が使えない人が居られることを知りました。

文の里から電動車椅子に乗って一人でビューローにいられたその勇氣にも感動しました。十分ちよつとでビューローに来ることが出来る距離に居ながら、外出することになんともなく負いめを感じていた私でしたので、三〇四〇分もかけて来ること事態、



ビューロー・グループとサロン準備委員会グループによる「クリスマス。つどい」のパムフレット

考えも及ばないことでした。

この頃の「あべのボランティア・ビューロー」は、月・水・土の午後一時から七時まで開所されていきましたから、土曜日の午後などは、学生さんや勤務を終えた人達が三々五々集って来られて、ボランティア活動の夢や実態を色々と話されていきました。その話を聞かせていただくことが楽しくて時間のたつのも忘れるほどでした。スロープの門が閉じられて帰れなくなったこともありましたが、

ビューローに来ておられた人の中に、穏やかな笑顔でいつもうなずくだけの男性が

居られました。その人は、山が好きでモンブランにも登ったと聞き、思わず問い返しましたところ、その人は聴覚障害の方で、手話通訳で会話されていたことに気がつきました。ここで初めて「話せない」事にも違う障害があることを認識しました。

この年の秋、あべのボランティア・ビューロー主催の第一回目の「ボランティアスクール」が開校されました。

ボランティアをされる方は、ある程度子供の手が離れたか、子育ての終わった方がされるものという考えを持っていましたが、若い方々も多く居られましたので、スクールが終わった後、ビューローに残って話をしていくその方々の何人かに岡氏が、障害者と一緒にかと声掛けをして下さいました。この時、気軽に引受け参加された旭純子・河合恵子さんは、現在も委員活動をして下さっています。

何をどのようにしていくかという深い考えを持つまえに、まずは健常者イコール、ボランティアという考えでない、障害者と健常者の出会いの場を作りたい。障害者も色々な障害を持った方の参加が出来る場に

したい。誰もが気軽に参加出来るサロンのような場をと思う中、ビューロー・グループとサロン準備委員会グループによる「クリスマス。つどい」がその年の十二月七日(土)午後二時～五時、育徳コミュニティセンター研修室で開催されました。

ビューロー関係のボランティア方や障害者に加えて、平和寮の視力障害者の若い人も参加して下さい、多くの人達との楽しい出会いの芽が誕生しました。



〇〇 サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました 〇〇

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙七九号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、七九号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六―六九一―〇二八)



ふれ愛

上平 幸雄

空の旅

⑦

話をパークレーに戻しましょう。

CILの活動を中心に説明を受けた後、
湾岸地区高速鉄道、略称BART（バート）
に乗りました。

サンフランシスコ湾を挟んで、サンフランシスコと、パークレーなど東側沿岸都市を、海底トンネルで結んでいます。平たく言えば、地下鉄です。

地上から改札、改札からホームへは、もちろんエレベーターが完備されています。そして、日本の地下鉄との違いをいちばん感じたのは、ホームと車両との段差がないことです。ホームと車両のすきまもほとんどなくて、車椅子でも楽々と乗り込めたのです。

日本で、こういった車両を製造しているメーカーが、技術的にアメリカより劣って

いるとは思えません。ほんの少し、発想を変えただけで、もっと乗りやすい地下鉄がすぐにでも実現できそうに思うのですが。パークレーの公共交通の、もうひとつの目玉がリフトバスです。しかし、よく故障するらしく、団体行動ということもあって、残念ながら、今回の旅行では乗れませんでした。



車椅子の三人は左から、ダニーさん、材さん、籍。

八月二十七日の午前は、二班に分かれて施設訪問です。ぼくは、CPセンター（脳性まひセンター）に向かう班に入れてもらいました。

オークランドの郊外、というより山の中といった感じのところに、CPセンターはありました。

五十年以上もの歴史をもつ施設ですが、現在は、二十一歳以上の成人を対象にした、様々なリハビリテーションを行う、通所施設です。

障害の程度や、到達段階により、自立生活訓練や能力開発など、いくつかのクラスに分かれています。修了年限はなく、七十名ほどの人が通ってきています。この地域には、ほかにこういった施設がないようで、脳性マヒに限らず、いろいろな障害をもった人を受け入れているそうです。

そして午後は、またパークレーに戻って、実際にUCBに学んでいる、障害をもった学生達と話し合うことができました。

三つの班に分かれたのですが、ぼくたちの班を案内してくれたのは、ダニーさんとネオミさんでした。

ナンペイの

ひとつこと&ふたこと。

26

思わぬ入院

昨年末に風邪をこじらせて、まるまる一週間入院をしてしまった。

その二週間ほど前から、掛かりつけの病院で薬をもらって飲んでいて自分ではもうほとんど治ったものと思い、もう一度念のため薬だけでもと言うぐらいの軽い気持ちで診察を受けた。

ところが、診察の結果は胃が異状に膨らんでいるのと、軽いながらも「肺炎」と言うことで、「薬だけでも…」なんてとんでもないと、そのまま病室へ直行。

いきなりベッドに寝かされて、鼻から管を通して胃のなかの空気を抜くやら、二十四時間ぶっ続けの点滴を打つやら、もちろん絶食でとにかく最初の一日はどれほどの重

病人かと思えるほどの有り様だった。

幸いにして、その後の経過は良く二日目からは食事もとれるようになり、短い点滴と吸入だけの治療が一週間ほど続いただけで無事退院できた。

症状も軽かったし、完全看護の病院だった



お知らせ

3月の出会い

日時 3月20日(春分の日)午後1時~

内容 「春をみつけに…」

(長居公園の散策とお花見)

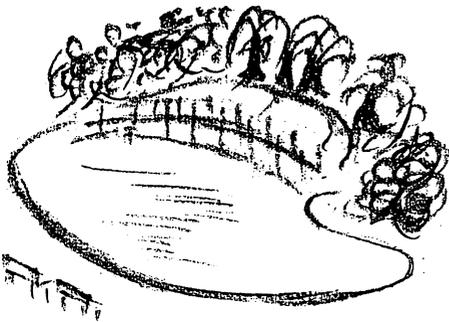
集合 大阪市身体障害者スポーツ

センター1階の受付前

[東住吉区长居公園1-32]

備考 *育徳コミュニティセンターは、この日休館ですので、くれぐれもお間違いなく。また、雨天の場合内容を変更します。障害者手帳等お持ちの方はご持参ください。

問合わせ先 TEL.06-691-1028 (冨田慶子)



たこと、それにホームヘルパーの方も良くしてくださったこともあったが、結婚後初めて「思わぬ入院」生活もさほどのトラブルもなく過ごすことができた。
入院など経験せずにいられればそれにこしたことはないのだろうが、今回の入院だけについては障害者一人だけの生活でも、なんとかそれなりに多少の苦勞は乗り越えていけると言うことを知らしめてくれたように思う。

南光龍平

美智子のこんな話



岸田 美智子

あなたのそばに申すの人はいますか？

介助者大募集！

私達は、障害者の地域での自立をめざし日々活動をしている団体で、「ウイル作業所」と言います。

多くの障害者は、今も地域で働く所が見つからず、地域でのガイドヘルパーやホームヘルパー制度が不備で介護が無いために家の中ばかりでお風呂やトイレに困ったり、山奥の施設（食事、入浴、トイレなど）に介助が必要な障害者が生活する所）での生活を余儀なくさせられています。

そして、施設の中には五〇歳を過ぎても電車に乗ったことが無い方や、自分のお金で自由に買物をした事が無いという方が

まだにおられます。

ウイル作業所では、そんな厳しい現実を変えていく為に、府下の施設障害者を対象に、個人的な外出を支援する為の「施設障害者外出介助サービス」に取り組んでいます。一方でウイル作業所の障害者自身の活動と生活を支えていく為の取り組みを行ってきています。

施設・地域で生活する障害者がこの社会であたりまえに生活していくためには、皆様のご協力なくしてはありえません。

ウイル作業所では、障害者を介助して下さる方を募集しております。

—— 気軽に連絡下さい ——

★車いす障害者の外出介助

★事務手伝い（障害者の代筆、宛名書き、通信作りなどいろいろ）

★車いす使用の女性障害者の入浴介助を手伝っていただける方

★食事（主に夕食）作り。その他、色々ありますよ〜ん。

*性別や年齢、曜日、時間帯などは問いません。貴方の出来る事だけで結構です。

*介護はペアで、慣れた人が必ず一人付

きます。

*介護料が支給されます。

*交通費は全額お支払いします。

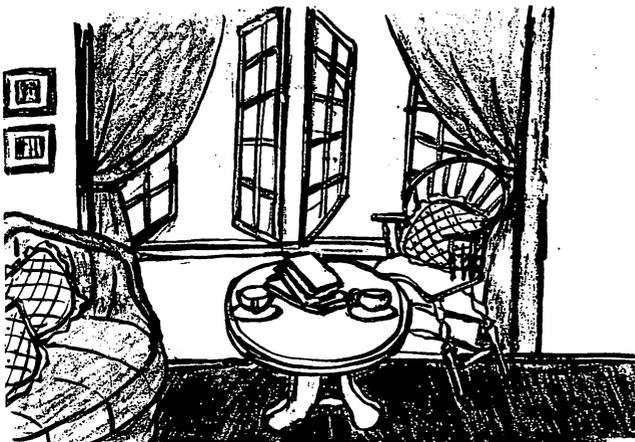
○連絡先

〒五五八 大阪市住吉区大領五丁目

十一十六 ウイル作業所

電話 〇六一六〇七七八二六〇

FAX 〇六一六〇七一五五〇三



あっちゃんのシングルライフ

10

山本 篤江

みなさんに可愛がっていただいた「あっちゃんのシングルライフ」も今回を最後に少しだけお休みをさせていただきま

す。手探りで一人になって、半年でダウンを

してしまいました。それも、ほとんどともにもどりました。

また、一からですが、もう一回がんばってみようと思っています。

また、面白いこと、珍しいことがあります。したら、お知らせします。

本当に、長い間有難うございました。

△完▽



井 感謝 します 井

カンパ・書籍・冊子等ありがとうございます。ました。

十二、一月のカンパ

金二三、〇〇〇円

旭純子、安達尚子、大里哲子、黒羽玲子

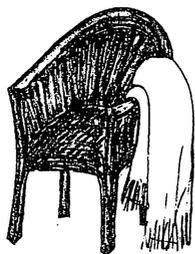
斉藤孝文、富田万里子、竹内新作、

南光龍平、倭満也子、匿名二名。

(敬称略)

プレゼント

育徳コミュニティセンターより、「ひざ掛け」を二枚いただいております。これを抽選でプレゼントいたします。2月28日までに、はがき又は電話で、富田あてに、お申し込みください。



編集後記

「あっちゃんのシングルライフ」は今号で終わります。入院を挟んでの連載ありがとうございました。中断していたシングルライフの再開に向けて、あっちゃんは目下充電中とか。

シングルライフの「続」を期待しています。

本紙は<100号まであと20>。カウントダウン出来るところまで来ました。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.80[93.2.20発行] 定価¥100。

代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-20-19-203 電話06-621-4365

連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028

表題；斉藤孝文・筆

印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.

毎月十二回(二、四、六、八の日)発行 一九九一年九月三日第三種郵便物認可